

日本陸水学会は湖沼、河川、地下水、温泉等、内陸部のあらゆる水域に関わる皆様のお役に立ちます

❖ 学界の研究者の皆様

論文、研究発表の場が充実しています。広範な研究領域からなる本会の会員相互の交流と意見交換は、さらなる研究の広がりをもたらします。

❖ 研究者を目指す学生の皆様

研究発表の場に加え、若手会など意見交換の場が充実しています。最先端の研究に触れるとともにキャリアアップに役立ちます。

❖ 水域調査・管理に携わる公共団体、産業界の研究者の皆様

論文、研究発表の場が充実しています。学界・官界・産業界からなる会員との交流と意見交換は、さらなる研究の広がりをもたらします。

❖ 水域環境に興味のある全ての皆様

最新情報を学会誌、各種行事等から入手できます。学界・官界・産業界からなる会員との意見交換の場を提供するとともに、水環境保全に取り組むNPO活動、学校内外の環境教育活動に発表の場を提供します。

最近のトピックス

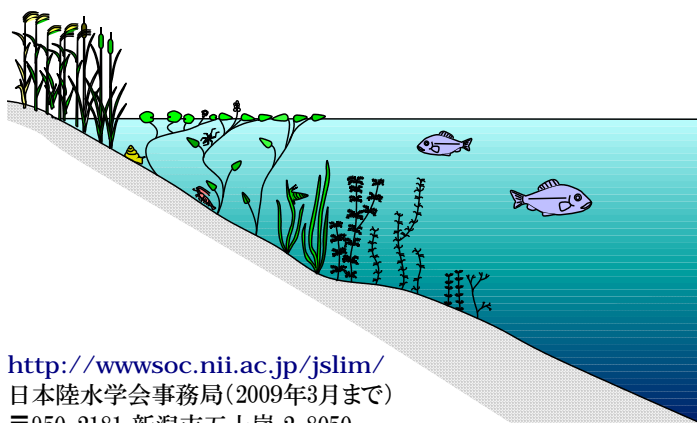
- ❖ 2006年
  - \* 韓国陸水学会への若手研究者相互派遣の開始
  - \* 「陸水の辞典」刊行
  - \* 「Limnology」, Impact Factor算出対象誌へ
- ❖ 2005年
  - \* 第2回日韓合同シンポジウムの開催
- ❖ 2004年
  - \* 第1回日韓合同シンポジウムの開催

陸水学 (Limnology) とは

陸水(リクスイ)とは海洋に対する語であり、内陸部に存在する湖沼、河川、ダム湖、河口域、地下水、湿地、雪氷などの水域、またはその水を表わしています。この陸水に関する総合科学として「陸水学」は発展してきました。英語のLimnologyはギリシャ語のLimnos(水たまり、湖、沼沢)に由来し、元来は「湖沼学」を意味していましたが、現在は湖沼だけでなく、陸水全般に関する科学として定義づけられています。

現在のように陸水で生じる諸現象を総合的にとらえる研究は、19世紀末に始まりました。スイスのレマン湖を対象として研究を進めたF.A.Forel博士(1841-1912)、日本では1899年に山中湖の測深をおこなった田中阿歌磨博士(1869-1944)などの研究がその始まりとされています。

陸水で生じる諸現象の仕組みを解明することが陸水学の目標であり、その発展のなかから物質循環や生態系など、現在の環境科学の基礎となる重要な諸概念が生み出されてきました。その一方で、陸水学は理論と応用が両輪となり発展してきたという特徴があります。水の利用や管理、水域汚染の制御、水界生態系の保全や改善など、緊急を要する課題に取り組む応用陸水学の発展は、絶えず新しい実験や理論的發展を促してきました。21世紀には、これら陸水学の成果を理解する人々がますます増え、さらに広範な関連分野に応用されていくことが期待されています。

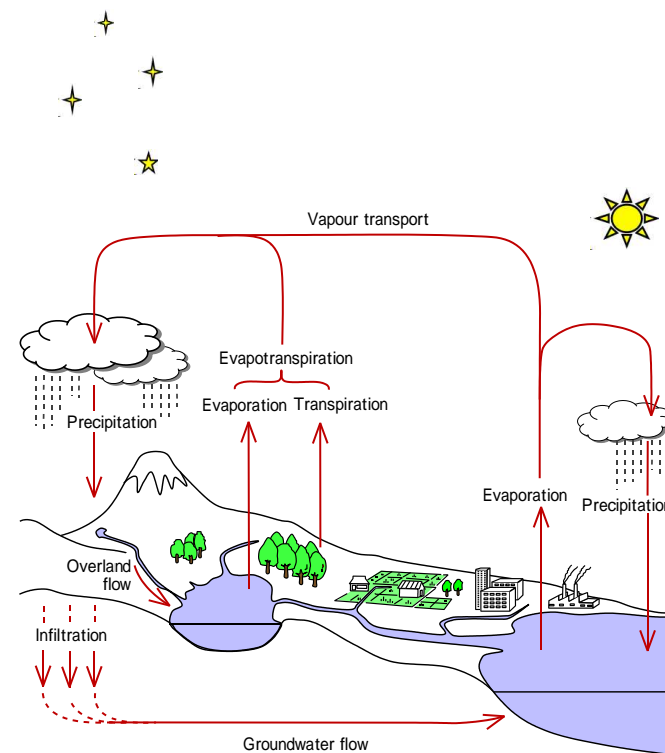


<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jslim/>  
日本陸水学会事務局(2009年3月まで)  
〒950-2181 新潟市五十嵐 2-8050  
新潟大学教育人間科学部 福原研究室内

2007/03/14 Ver.1.1

## 日本陸水学会のご案内 入会のお誘い

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jslim/>



日本陸水学会  
The Japanese Society of Limnology,  
Since 1931

# 日本陸水学会

陸水学雑誌

The Japanese Society of Limnology

日本陸水学会は1931年6月に創設されました。湖沼、河川、地下水、温泉等、内陸部のあらゆる水域に関して、地球物理学、地球化学、生物学、地理学、環境科学などの側面から総合的な研究を志す研究者の集団です。本会はこの陸水に関する学術の進歩、普及ならびに応用をはかることを目的とし、この目的を果たすために大会や総会などを開催するとともに、学会誌として和文誌「陸水学雑誌」と英文誌「Limnology」を発行しています。

## 会員構成

一般会員：陸水分野にたずさわる個人

学生会員：学校に在学中の個人

名誉会員：本会に顕著な貢献をした一般会員

団体会員：陸水分野にたずさわる団体

賛助会員：本会の活動を賛助する個人または団体

英文誌購読会員：英文誌購読を目的とする海外居住個人

(2006年9月現在の個人会員総数、約1200名)

## 主な会員特典

- \* 和文誌「陸水学雑誌」(年3号)、英文誌「Limnology」(年3号)が無料配布されます
- \* 英文誌についてはSpringer社の全文閲覧サービス(個人会員対象)を無償で受けられます
- \* 出版図書が会員割引で購入できます

皆様のご入会をお待ちしております！

詳しくはこちらをご覧ください

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jslim/>

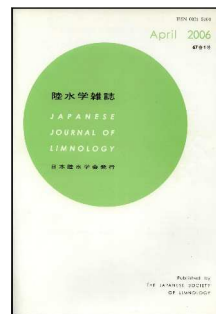
年会費(2006年度参考)：一般会員 10,000円、学生会員 5,000円

## 事業活動

### ❖ 学会誌の発行

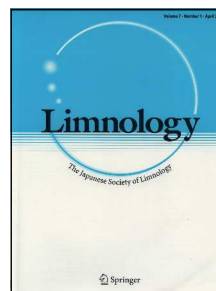
#### \* 和文誌「陸水学雑誌」(ISSN:0021-5104)

1931年の創刊以来、継続発行されてきた我国の陸水学に関する総合雑誌です。掲載される論文はいずれも査読を経て掲載され、陸水の基礎的研究を主軸としながらも、水利用、水質保全、環境教育などの応用的研究にも広く発表の場を提供しています。



#### \* 英文誌「Limnology」(ISSN:1439-8621)

陸水学会の各領域での研究が活発化し、益々国際化してきている動向に対応するため、2000年より英文誌を刊行しました。掲載される論文はいずれも複数のレフェリーによる審査を経て掲載され、本誌は我国を代表する陸水学の総合雑誌として海外でも高い評価を得ています。



Vol. 6(2005)からImpact Factorの算出対象誌となりました  
**Latest Impact Factor 1.091**  
(陸水関連の国際誌17誌中7位にランキング)

### ❖ 各種行事の開催

#### \* 全国大会

年1回、全国大会を秋季に開催し、約200件の成果発表の一般講演が行われています。一般講演は研究領域(湖沼生物・河川生物・水質・汽水・湿地・堆積物・陸水物理など)ごとに発表がおこなわれます。大会開催期間中には、特別講演(招待講演)、課題講演、自由集会など各種イベントが併せて開催されています。

#### \* シンポジウム

タイムリーなテーマを題材に、市民に開かれた公開シンポジウムを開催しています。最新情報の入手、意見交換の場として好評です。

### ❖ 書籍編集

陸水学会編集の「陸水の辞典」が2006年3月講談社より刊行されました。会員には会員割引が適用されます。学術・専門書にとどまらず、入門普及書など、陸水分野の理解と普及に役立つ書籍の編集を進めていきます。



### ❖ 関連学協会との交流

#### \* 国際交流

国際理論応用陸水学会(SIL)と密接に提携し、国際的な情報交換・交流の場を設けることで陸水学の発展と普及に貢献しています。近年では韓国陸水学会と「日韓合同陸水シンポジウム」を開催し、また両学会では若手研究者の派遣制度を設け、積極的な交流を進めています。今後、アジア各国の学協会に交流の輪を広げていきます。

#### \* 国内学協会との交流

日本学術会議をはじめ、日本地球惑星科学連合、自然史学会連合会、日本水環境学会、日本プランクトン学会等の学協会と共同でシンポジウム、講演会等を開催し、学協会相互の交流ならびに会員相互の情報交換を行っています。

### ❖ 表彰

本会の事業に対する顕著な功労者に対する名誉会員の推薦、優れた論文著者の会員に対する学会賞「吉村賞」など表彰制度を設け、会員の研究の奨励や陸水学の活性化をはかっています。

### ❖ 支部会

北海道、関東、甲信越、東海、近畿において支部会が独自の研究会、講演会、見学会など地域に密着した活動を行っています。

### ❖ 情報発信

最新情報をWebサイト<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jslim/>で公開するとともに、各種行事や研究助成公募案内等のお知らせを陸水学会メーリングリストでもご案内しています。